

Ⅱ ビジネス展開能力開発プログラムの推進と発展

1 ビジネス展開能力開発プログラムの組立

「ビジネス展開能力開発プログラム」はゼミナール（以下、ゼミと略）を中心に、学生自らの目標の自覚と自律的成長の動機付けを行なうとともに、企画力・提案力・人間力の育成をめざし、学年進行に対応して、段階的に能力開発を行う。

- ・新入生合宿研修－新入生全員対象の研修合宿を入学式直後（4月上旬）に行い、長岡大学での大学生生活のすごし方を学ぶ。
- ・ゼミは、1～4年次必修とし、企画力、提案力および人間力を養成するとともに、4年次に「卒業提案」を作成することを目標とする。
- ・平成20年度のゼミ数は、数名～10名程度／1ゼミを基準として、1年次前期15、1年次後期15、2年次13（通年）、3年次14（通年）、4年次13（通年）である。
- ・1年次ゼミ－高大接続教育＋マンツーマン指導
 - * 高大接続教育は、基礎学力の養成（前期：数学、後期：国語）
- ・2年次ゼミ－文章力教育＋マンツーマン指導
 - * 1～2年次のマンツーマン指導は、主として人間力養成
- ・3～4年次ゼミ－企画・提案力／社会人基礎力教育＋マンツーマン指導
 - * 3～4年のマンツーマン指導は、主として就職等進路指導

なお、平成20年度の本プログラムの対象は新、新々カリキュラム適用の全学年である。

2 新入生合宿研修（平成20年4月10日）

この研修では、新入生約106名を対象に、約3時間の「ビジネス体験講座」の中で、グループワークを行った後にフューチャーマップ診断テストを実施した。

内容

◆講師 (株)セルフウイング・インストラクター 石黒 順子 氏、深川 信彦 氏

1. オリエンテーション

「自分から見た私、他人から見た私」

2. ビジネス体験講座

テーマ：「正四面体の製作・販売を競う」

* 環境経済学科、人間経営学科合わせて16のグループに分かれ、正四面体の製作、販売活動から、どれだけ利益を獲得できるかを競った。

① グループ（会社）に分かれて共同で設計・製作



② グループ間での検品と販売



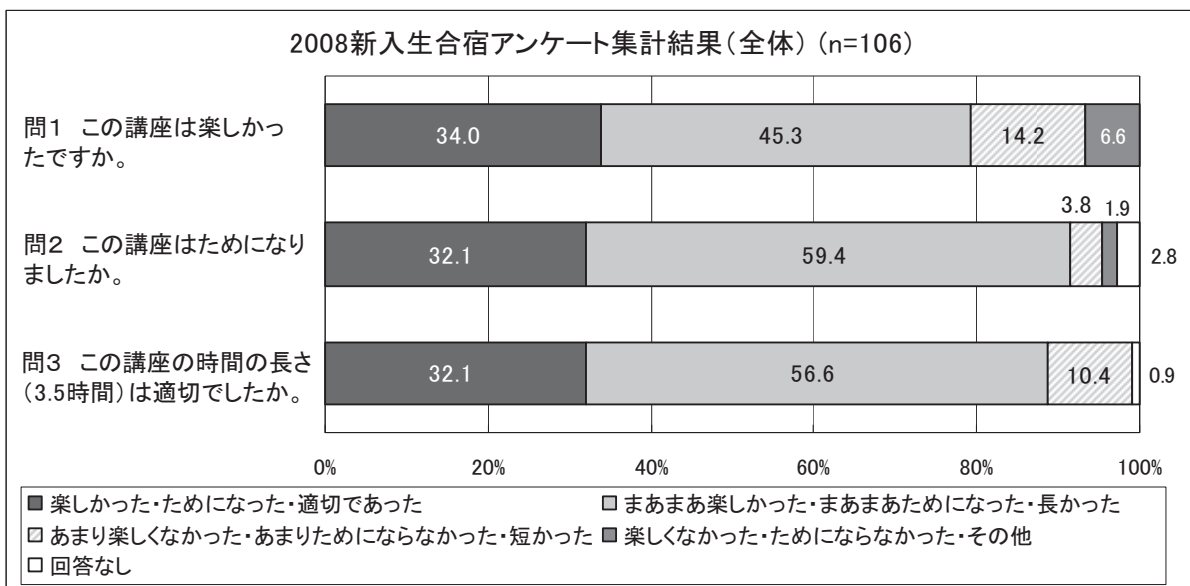
③ 決算、分析、振り返り



④ 結果発表（講評）



⑤ 学生は“フューチャーマップ診断テスト”を実施



3 ゼミにおけるマンツーマン指導

(1) マンツーマン指導

マンツーマン指導は、「面倒見の良い大学」という本学の教育目標を達成することをめざして、次のような「自己発展チェック・シート」と「マンツーマン指導カルテ」（平成 18 年 3 月の F D 研究会で決定）を活用して、年間を通して実施された。

- ・「自己発展チェック・シート」は、人生の目標に向けて大学生活における月次目標を学生が定め、その進捗状況を毎月チェックし、目標達成をめざす方式＝目標マネジメント方式である。（図表 2-1～3 参照）
- ・「マンツーマン指導カルテ」は、「自己発展チェック・シート」も活用しつつ、学生が大学生活を充実して過ごせるよう、授業時間以外に担当教員が学生に毎月 1 回面談し、多面的なアドバイスをを行う方式である。（図表 2-4 参照）

1 年間を総括すると、次のような、特徴、問題点、改善課題が整理できる。

(2) 自己発展チェック・シートの活用状況と改善課題

自己発展チェック・シートは、平成 19 年 9 月の F D 研究会での改善案にもとづく様式を引き続き使用して、実施した。様式は、“1, 2 年用”、“3, 4 年用”の 2 つに別けて利用した。ゼミ担当教員のアンケートによれば、概ね次のように評価できる。

①チェックシートの活用方策・・・ゼミ担当教員は、月 1 回のマンツーマン指導時にチェックシートの達成状況をチェックし、学生支援・指導に活用するという点では概ね有効であったといえる。つまり、マンツーマン指導の補助手段として。他方、学生はシートの達成目標を意識し、行動しているかという点、そういう学生は少ないと言わざるをえない。つまり、学生にとっての有効性は低いと思われる。

②目標設定の枠組み・・・学生にとっての有効性が低いのは、自ら大学生活の実現目標をきちんと定められないためである。概ね、1～2 年次ゼミでは、生活習慣の改善（授業を欠席しない、遅刻しない、早寝早起きなど）、自主的活動および資格検定取得等の目標設定が主であり、3～4 年次ゼミでは、就職と卒論（これはとくに 4 年生）がメインの目標になっている。生活習慣以外の目標がなかなか明確にできない学生が多く、したがって、有効に活用できない。

③目標の立て方と評価の仕方・・・目標設定が明確でなければその到達度の評価も難しい。したがって、自分で達成度が明確にできる目標設定が重要になる。このへんの目標設定の仕方を学生に十分理解させるためには、後述のフューチャーマップ診断結果等を利用した各学生の強みや弱みの把握と解決課題の明確化（アドバイスカードづくり）などを各ゼミで行う必要がある。

(3) マンツーマン指導カルテの活用状況と改善課題

マンツーマン指導カルテを活用したマンツーマン指導は、1～4 年次の全学年のゼミで実施された。マンツーマン指導は、主に授業時間終了後や昼休みの時間帯を利用して、各ゼミ担当教員の研究室で行った。学生の状況に応じて、1 度に数名の学生と面談する場合や 1 人の学生に時間をかけて数回に別けて指導を行う場合など、ゼミ担当教員の判断によって柔軟に面談方法を調整している。カルテには、学習、課外活動、生活、進路状況を記入するが、主として、1～2 年次ゼミでは出欠状況と生活状況（健康、アルバイト等）、3～4 年次ゼミでは進路・就職活動状況のチェック・指導が中心であった。

①学生の大学生活への支援・・・学生の不安や悩みの相談に乗ることにより新入生を大学生活になじませる上で、大きな役割を果たす。友達ができない学生にゼミ教員が他の学生を紹介することもあった。2 年次以上でも、出欠の確認から授業、アルバイト、就職活動等全般の相談に乗ることにより、学生の大学生活を支えている。3～4 年次のゼミでも就職・進学や卒論作成のチェック・指導に役立っている。こうしたマンツーマン指導の効果は共通に確認できている。

②担当教員の負担の問題・・・学生数の多いゼミ、あるいは担当ゼミ数の多い教員からは、学生との面談の時間が大きくなること、また、面談結果をカルテに記入するのに時間がかかることの2点が多くの教員から指摘されている。前者については、基本的な事項は比較的時間をかけて聞き、その後は短時間で、とか、複数面談などの工夫、後者も基本的事項を書くカルテとその他カルテの区別等の方法の工夫で、対応する。

③活用の課題・・・効果は確認できるが、その活用は必ずしも十分ではないとの意見も出されている。事務サイドからのコメント等が少なく、負担の大きさにつりあわないのではとの意見。教員―事務で情報共有を迅速に行うよう心がける必要がある。

④今後の活用方法・・・カルテを有効活用するためにはデータベース化が必要との考え方も出されており、早急に検討する必要がある。また、3・4年次の就職関連情報に関しては迅速性が要求されるので、このカルテとは別の情報流通の方法を検討すべきである。

―マンツーマン指導に関する学生への説明文―

学生の皆さんへ

マンツーマン指導について

長岡大学では学生一人一人を全ての面で、バック・アップするため「マンツーマン指導」を行っています。

皆さんの所属する「ゼミナール」の担当教員が毎月、勉強・課外活動・生活・アルバイト・就職・悩み事など何でも、相談にのることになっています。

皆さんに何があっても大丈夫なようにするのが、「マンツーマン指導」です。気軽に何でも相談してください。

―SDSに関する学生への説明文―

学生の皆さんへ

SDS（自己発展チェック・シート）について

学生時代はかなり自由度の高い毎が続きます。

自由な時間を有効に使って自分を高めることが大切です。

長岡大学では学生の皆さんに、SDS（Self-Development Sheet:自己発展チェック・シート）を作成することを勧めています。

SDSは自分で目標とその目標達成へのアクション・プランを明確にするものです。

SDSの作成と実行においてはゼミナールの教員も応援します。

図表 2-1 自己発展チェック・シート（1、2年次用） 様式例

SDS

1.2年用

学年	年	学籍番号	名前
----	---	------	----

自分の生き方は自分で決めるもの。一日一生です。将来の人生を考え、4年間の大学生活をいかに過ごすか。目標をもって日々の勉強・趣味・遊びにメリハリをつけて生活することが大切です。

① 自己分析・紹介 フューチャーマップ・性格・好きなこと等から自分を紹介してください。																																			
② 将来、送りたい人生 将来の自分の人生を考えたとき、どんな人生を送りたいかを参考Aから「1つだけ」選んで文字で記入してください。	(1つ)																																		
③ 上記②のために、達成したいこと 将来の人生のために、主にしたいと思うことを参考Bから選んで文字で記入してください。(主なこと2つ)	(2つまで)																																		
④ 大学生活で力を入れたいこと 将来の自分を考えたとき、大学ではどんなことに力を入れたいと思っていますか。自由に記入してください。	(いくつでも、どんなことでも)																																		
⑤ 特に、この4ヶ月で力を入れたいこと！ 上記④の中でこの4ヶ月で特に力を入れたいこととその具体的目標を記入して下さい。(参考Cも参考に)																																			
	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">力を入れたいこと・目標</th> <th colspan="4">達成度</th> </tr> <tr> <th>月</th> <th>月</th> <th>月</th> <th>月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生活習慣</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> </tr> <tr> <td>健康・体力増進</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> </tr> <tr> <td>自主的活動 (課外活動等)</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> </tr> <tr> <td>学習・知識・技能 資格等</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> </tr> <tr> <td>自由研究 その他</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> <td>%</td> </tr> </tbody> </table>	力を入れたいこと・目標	達成度				月	月	月	月	生活習慣	%	%	%	%	健康・体力増進	%	%	%	%	自主的活動 (課外活動等)	%	%	%	%	学習・知識・技能 資格等	%	%	%	%	自由研究 その他	%	%	%	%
力を入れたいこと・目標	達成度																																		
	月	月	月	月																															
生活習慣	%	%	%	%																															
健康・体力増進	%	%	%	%																															
自主的活動 (課外活動等)	%	%	%	%																															
学習・知識・技能 資格等	%	%	%	%																															
自由研究 その他	%	%	%	%																															
⑥ やりたい仕事 卒業してからどんな仕事をしたいと思っていますか。現在の気持ちを記入してください。																																			

ゼミの先生があなたの補佐役として何かと相談、アドバイスをしてくれますので、この用紙をゼミの先生に渡してください。コピーをとって返却します。

参考A

- 1 自分を高め、やりがいのある人生を送りたい
- 2 人並みに、堅実で安定した人生を送りたい
- 3 感動や遊び心のある面白い人生を送りたい
- 4 目標をもって計画的に生きる人生を送りたい
- 5 おしゃれで品のよい人生を送りたい
- 6 人に負けないように努力する人生を送りたい
- 7 人に干渉されずに、のんびり気楽な人生を送りたい
- 8 個性を表現した創造的な人生を送りたい
- 9 豊かでゆとりのある人生を送りたい
- 10 その日その日を楽しむ人生を送りたい
- 11 （自分で考えたことを記入する）

参考B

- 1 よい友達をつくりたい
- 2 気軽に人と話せるようになりたい
- 3 自分の適性や性格を知りたい
- 4 好奇心・探究心を旺盛にしたい
- 5 専門的な知識をつけたい
- 6 ひと回り人間的に成長したい
- 7 社会人としての常識力をつけたい
- 8 体力を増強したい
- 9 （自分で考えたことを記入する）

参考C

- 1 講義に出席する
- 2 講義に遅刻をしない
- 3 体力を増進するためにスポーツをする
- 4 クラブの活動を行う
- 5 学園祭に参加する
- 6 対話力をつけるために多くの人と話す
- 7 読書をする
- 8 資格をとる
- 9 （自分で考えたことを記入する）

図表 2-3 自己発展チェック・シート（3・4年次用） 様式例

SDS (Self-Development Sheet：自己発展チェック・シート) 3・4年用

SDS の目的⇒常に目標とその目標達成へのアクション・プランを明確にするために作成
 SDS の方法⇒4ヶ月ごとに作成してゼミ担当教員のアドバイスを受ける。
 SDS の提出⇒ゼミ担当教員に提出。コピーをとって返却します。

年：	学籍 番号	氏名	担当 教員				
月：							
自己分析	自分の強み： 自分の弱み：						
夢			将来の 職業				
卒業までの目標							
今年度の目標							
4ヶ月の目標							
	目 標		達 成 度				
			月	月	月	月	
生活習慣			%	%	%	%	
健康・体力増進			%	%	%	%	
自主的活動 (課外活動等)			%	%	%	%	
学習・知識・技能 等			%	%	%	%	
就職・進学関係			%	%	%	%	
自由研究 卒業論文等			%	%	%	%	
その他			%	%	%	%	

図表 2-4 マンツーマン指導カルテ 様式例

マンツーマン指導カルテ： 年 月

学籍 番号		学生 氏名						
担当 教員	印	面談日	教務課	印	学生課	印	就職 支援室	印

★講義出席 学習状況	
課外活動	
日常生活 アルバイト	
将来の進路 就職活動	
相談事 その他	
★教員 ↔ 教務課	
★教員 ↔ 学生課	
★教員 ↔ 就職支援室	

<回覧ルート> 1・2年次生カルテ:教員→教務課→学生課→教員メール・ボックス
 3・4年次生カルテ:教員→教務課→学生課→就職支援室→教員メール・ボックス

4 ゼミにおける就職支援活動の展開と課題

学生の就職支援活動は、3年次から、就職支援室－就職委員会－ゼミの連携体制で、本格的に実施している。今年度を含めて、5学年の卒業生を送り出してきたが、就職率（就職希望者数が母数）は95%程度を達成しており、良好な状態を維持している。しかし、就職できない学生も数%おり、また、就職内定時期の早期化のなかで夏以降にずれ込む学生も多く（約40%）、就職支援活動の一層の充実・強化が必要である。それは、夏までに内定を決めて、秋に4年次の「卒業提案」、卒業論文に全力をあげるためにも必要である。ゼミの課題を整理しておきたい。

①**基本的課題**・・・就職意識－キャリア形成の体系的就職支援プログラム形成（第Ⅵ章参照）のもとで、ゼミ生にどのような就職指導・大学院進学指導を行うか、その手引き＝「標準マニュアル」を作成し、ゼミ教員の支援活動の充実を図る必要がある。県内企業情報の整備も重要である。この点は、前年度指摘事項であるが、十分な成果をあげていないので、再掲する。ゼミでの就職活動支援の柱は、就職意識の醸成、就職（能）力の形成、直接的指導・支援の大きく3つであろう。各教員が行っているそのポイントだけ紹介しておく。

②**就職意識の醸成**・・・自己発展チェック・シートの議論等を契機にしたライフプラン・働く目的・仕事の考え方、職種・業種の理解と希望、企業見学、インターンシップ等の職場・現場体験の促進、就職講座の受講奨励等による就職意識の醸成を図っているが、さらに検討する必要がある。

③**就職（能）力の形成**・・・就職（能）力の形成としては、コミュニケーション能力形成（スピーチ、ディベート）、筆記試験対策（SPI対策）、クラブ活動・悠久祭等への積極参加、企業調査・まとめ、プロジェクトによる企画力・実行力、社会人基礎力の養成などかなり行われている。一層の充実・拡大が必要である。

④**直接的指導・支援**・・・3年後半～4年夏までの期間にはゼミ教員による就職活動の直接的指導・支援も行われている。就職登録サイトの活用方法、エントリーシートの書き方、履歴書の書き方、面接への対応（練習と直前指導）、あいさつの仕方、お礼状の書き方、就職活動の考え方（エントリー30社・受験10社等）など多様である。

また、「早く始めれば早く決まる」「下手な鉄砲も数撃ちゃあたる」というような教員の考え方はともかく、「会社選びを学生任せにしない」あるいは「企業に教員が出向き学生の就職依頼をする」などの考え方も出されている。この点はきちんと議論し、明確な結論をださなければならない。また、4年生のゼミについては、「就職活動指導と卒論指導の配分をどうするか」をつねに考慮して進める必要がある。

⑤**就職支援室との連携**・・・3・4年生ゼミ担当教員は一樣に、就職支援室との連携の重要性を指摘している。より具体的な情報交換、連携方法を整理する必要がある。とくに、就職がなかなか決まらない学生への指導（4年夏・秋以降）方法、ある分野の就職活動に固執するケースへの対応、就職カウンセリングも拒否する学生への対応など課題は多い。

さらに、公務員試験希望者対策や大学院進学者対策は個別に行われているが、どう計画化、組織化するかを早急に検討する必要がある。

5 今後の課題

平成20年度のビジネス展開能力開発プログラムについては、マンツーマン指導カルテを活用した個別指導支援体制が全学年を通して継続的に確立されたことが大きな成果であった。

しかし、自己発展チェック・シートの活用については、学生が自主的に目標設定を行えるようにどう支援するか、が課題として残っている。動機付けをどう行うか、これがポイントである。また、マンツーマン指導に関してはゼミ担当教員の負担増をどう軽減するか、具体的に検討する必要がある。

そして、ゼミの教員が、学生の能力開発・向上（キャリア開発）から就職・進学までを総合的に指導・支援できる基本マニュアル＝「ゼミを中心にしたビジネス展開能力開発マニュアル」の作成に進む必要がある。